

遺物写真図版 4 2区出土土器 SK101 SK102 SP101 SP106 SP107 SP133 SP135 III層 IV層



遺物写真図版 5 2区出土土器 IV層

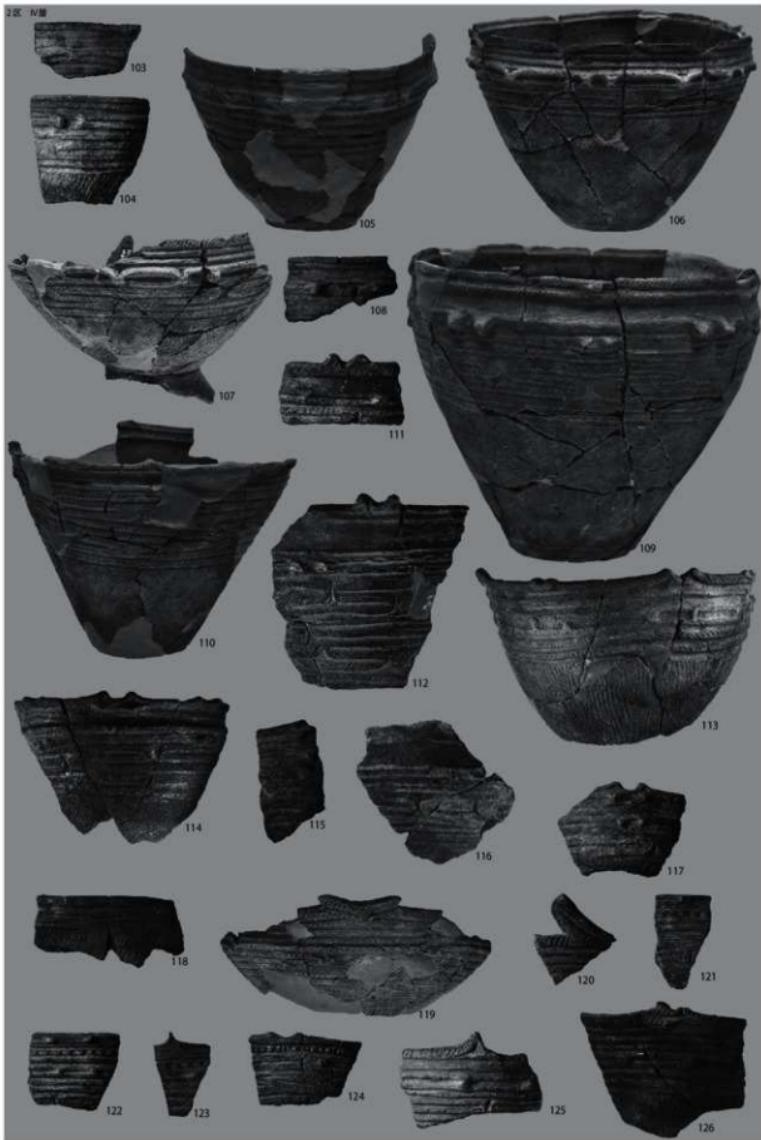


遺物写真図版 6 2区出土土器 IV層

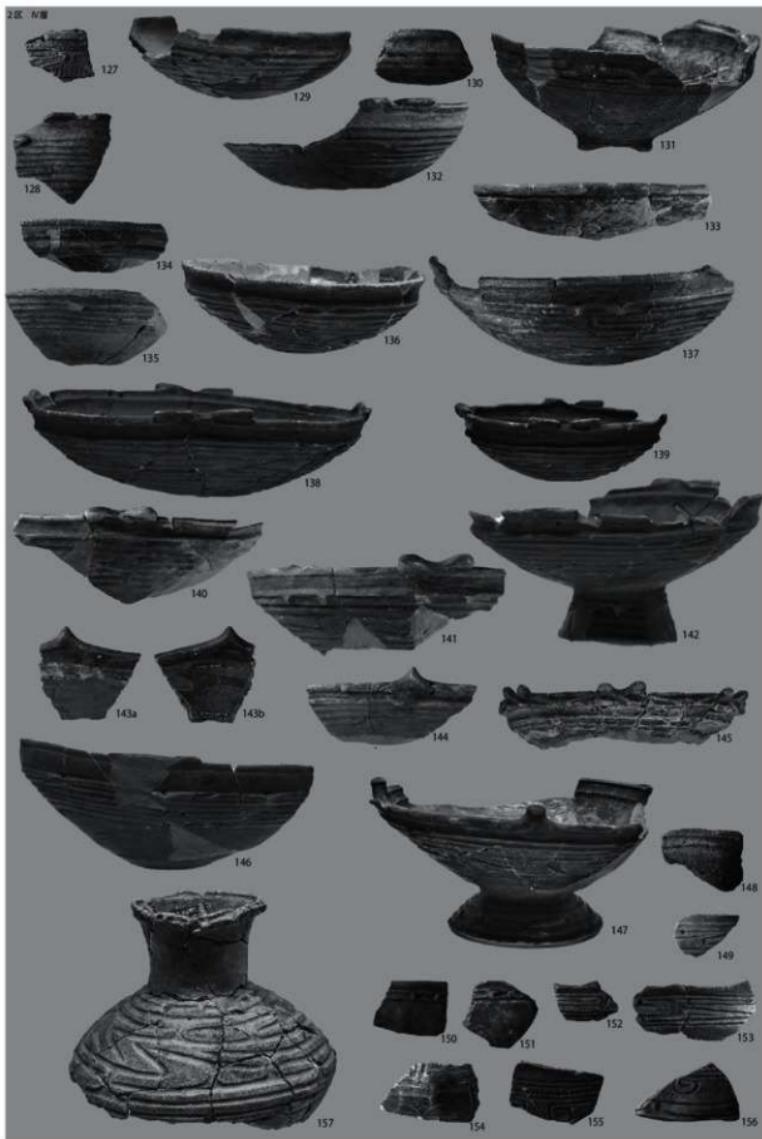
2区 N層



遺物写真図版 7 2区出土土器 IV層

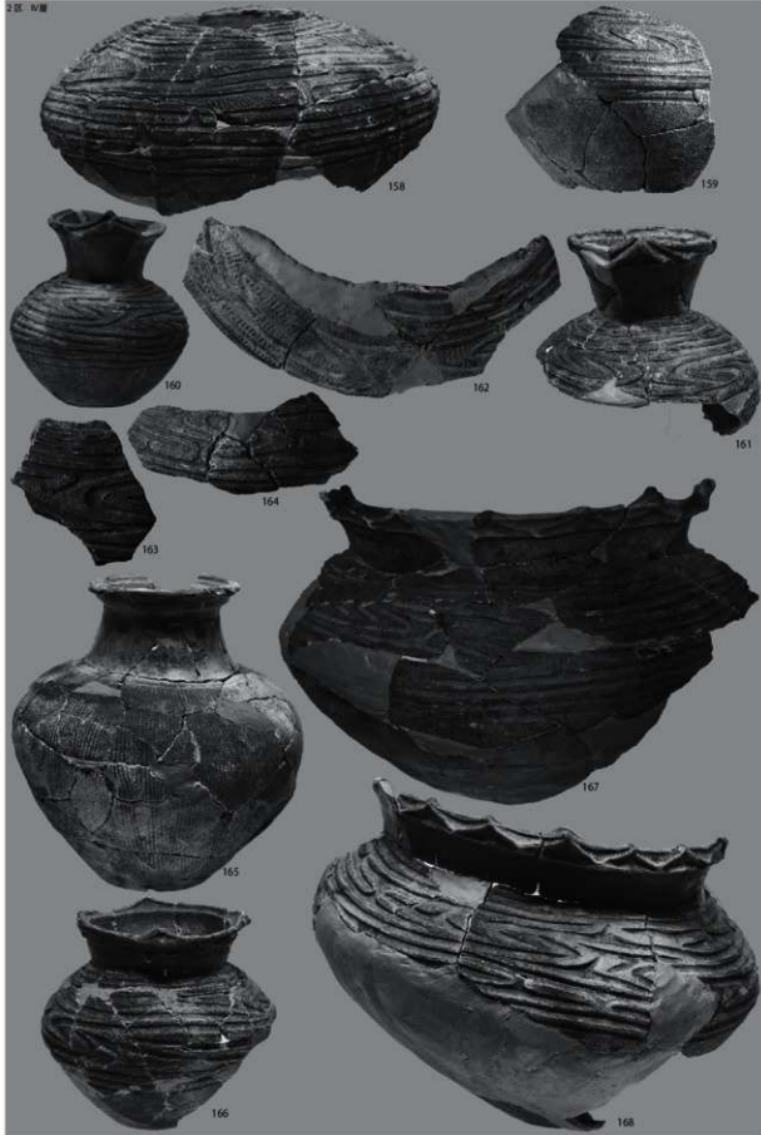


遺物写真図版 8 2区出土土器 IV層



遺物写真図版 9 2区出土土器 Ⅳ層

2区 IV層



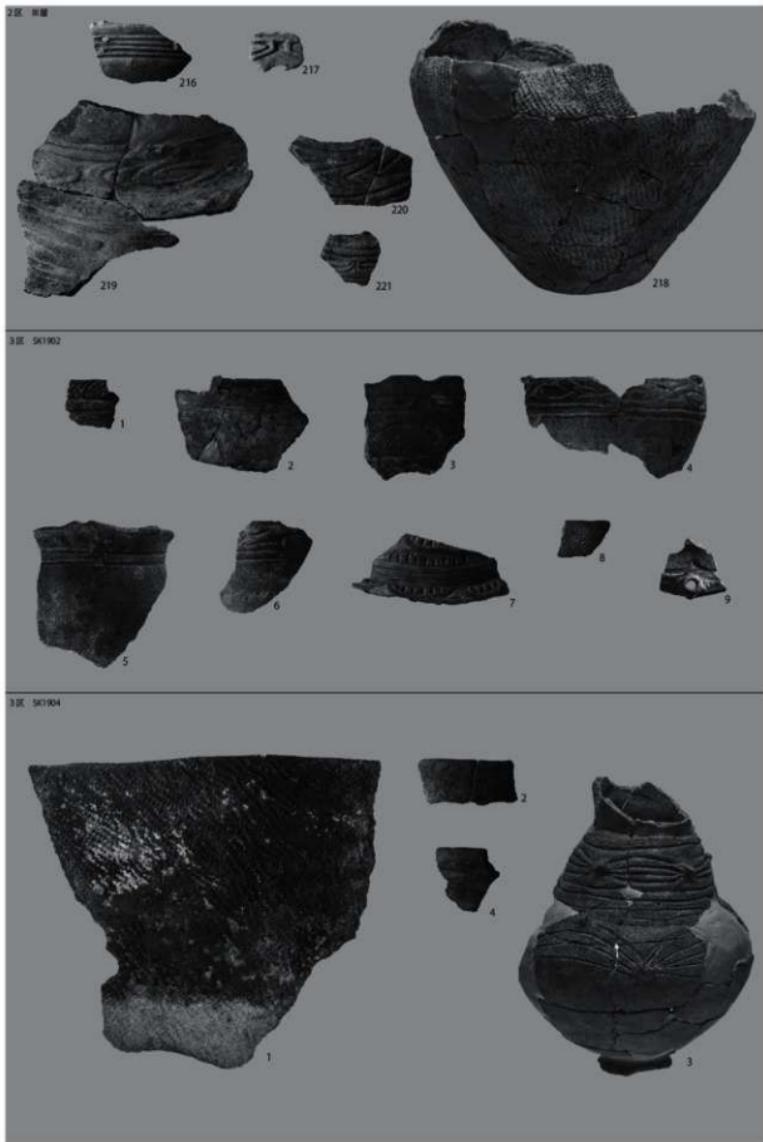
遺物写真図版 10 2区出土土器 IV層



遺物写真図版 11 2区出土土器 IV層



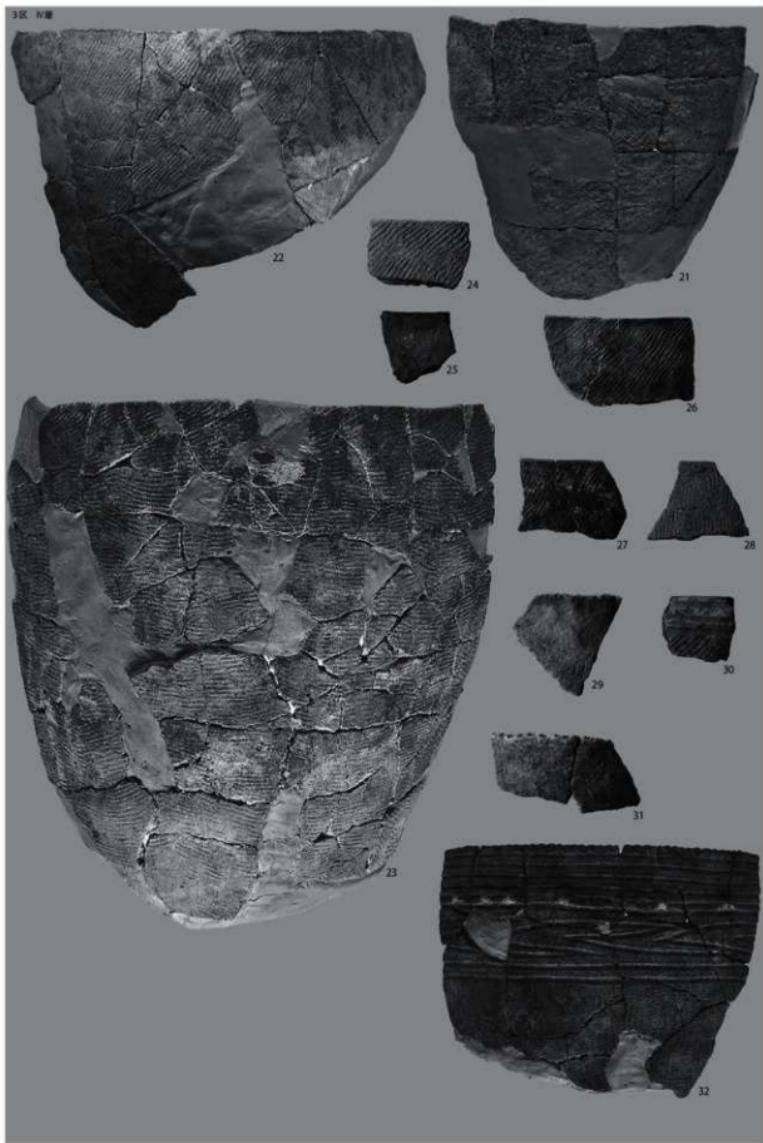
遺物写真図版 12 2区出土土器 IV層



遺物写真図版 13 2区出土土器 III層 3区出土土器 SK1902 SK1904



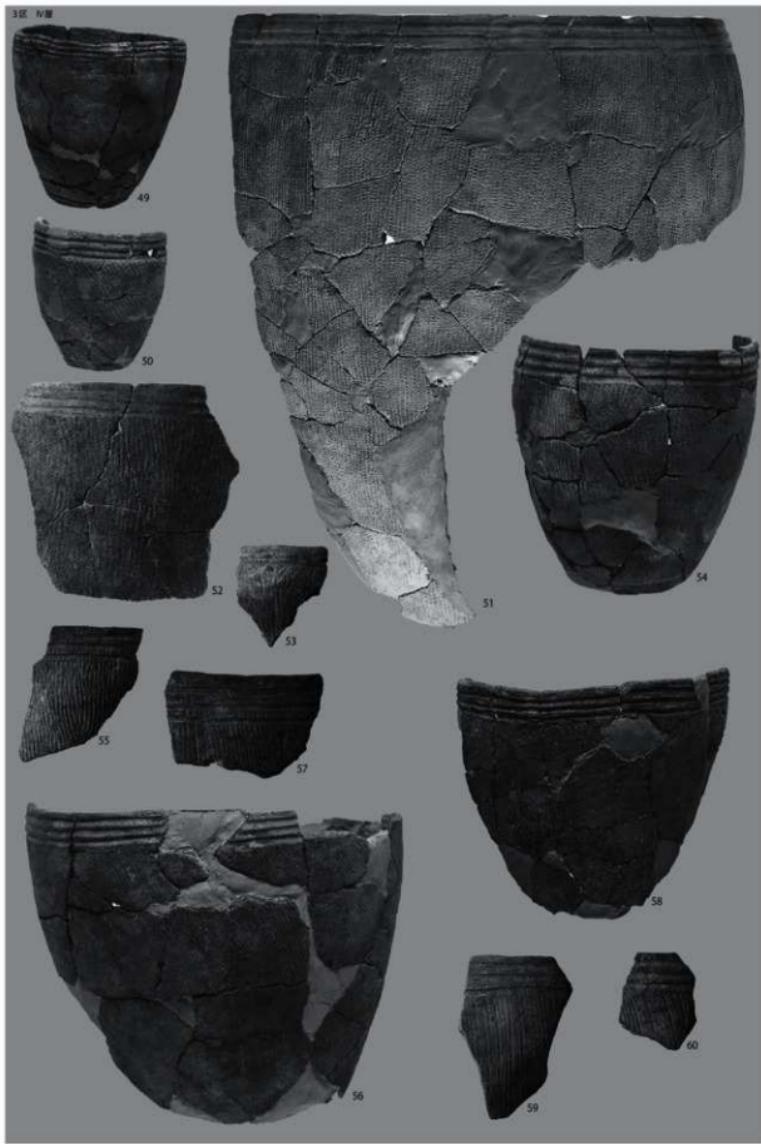
遺物写真図版 14 3区出土土器 V層 IV層



遺物写真図版 15 3区出土土器 IV層



遺物写真図版 16 3区出土土器 IV層



遺物写真図版 17 3区出土土器 IV層



遺物写真図版 18 3区出土土器 IV層



遺物写真図版 19 3区出土土器 IV層



遺物写真図版 20 3区出土土器 Ⅳ層



遺物写真図版 20 3区出土土器 IV層 III層

1区 土偶・土製品



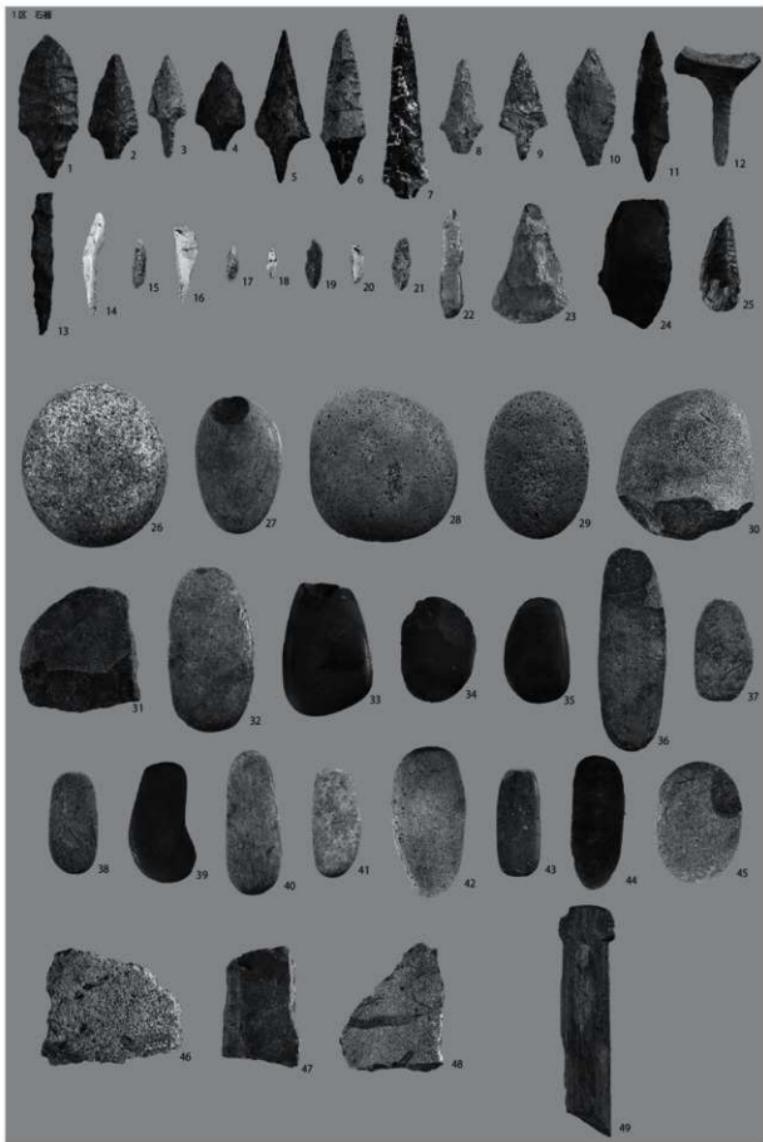
2区 耳飾り・土製品



3区 土偶・ミニチュア土器・耳飾り・土製品



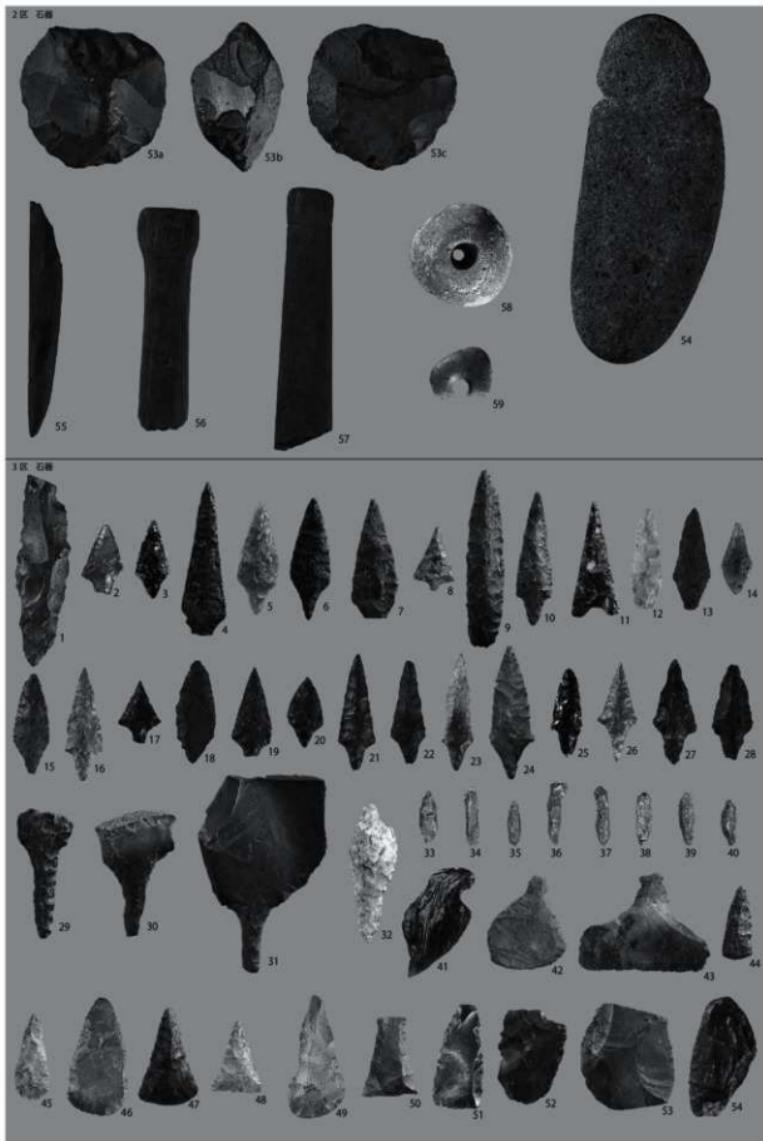
遺物写真図版 22 1区・2区・3区 土偶・土製品・ミニチュア土器・耳飾り



遺物写真図版 23 1区出土石器・石製品



遺物写真図版 24 2区出土石器



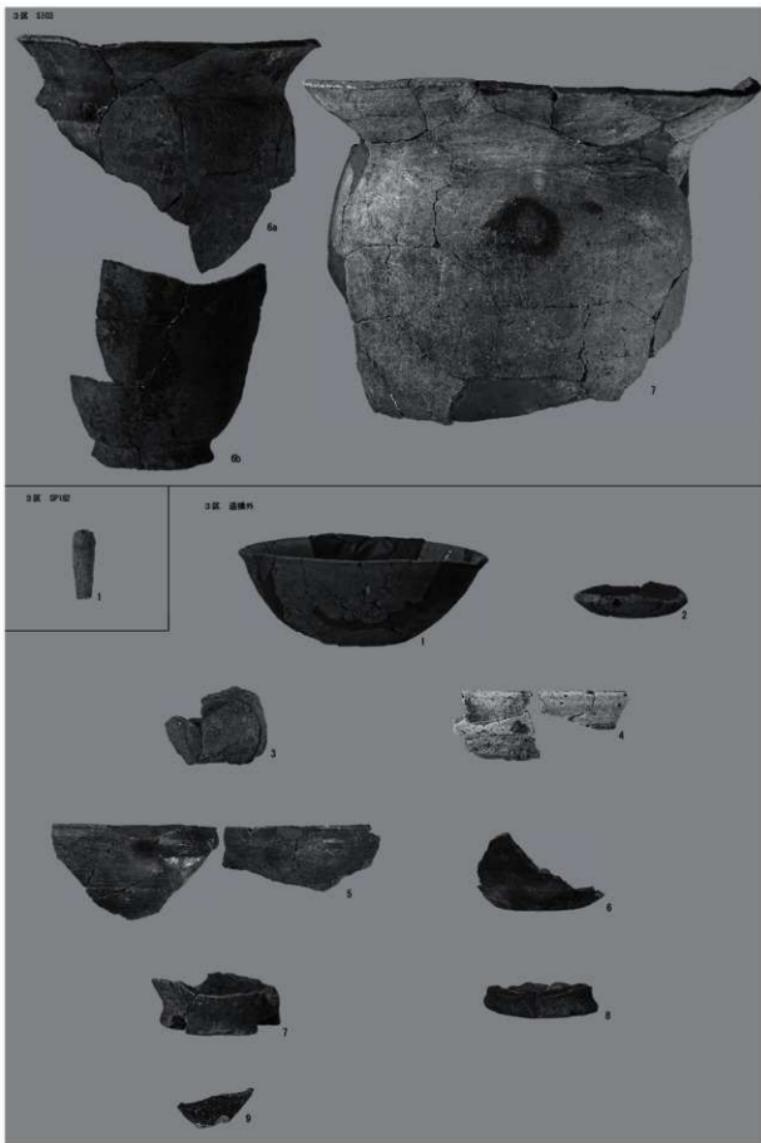
遺物写真図版 25 2区・3区出土石器・石製品



遺物写真図版 26 3区出土石器・石製品



遺物写真図版 28 3区出土遺物 SI01・SI02・SI03



遺物写真図版 29 3区出土遺物 S103・SP182・造構外

## 付章 史跡十三ヶ湊遺跡現状変更に伴う確認調査

### 第1節 調査に至る経過

平成29年度に東北電力（株）五所川原営業所より、史跡十三ヶ湊遺跡内にある既存の電柱が劣化したため、建替工事が必要になったとして、事前協議の依頼を受けた。当該申請地は、史跡十三ヶ湊遺跡保存管理計画でA-1地区（十三ヶ湊の大土塁と堀跡周辺）とB-1地区（武家屋敷・領主館地区）に指定された地点である〔五所川原市教委2008〕。A-1地区は原則として史跡の保存管理、整備活用以外の現状変更は認めない地区となっているが、既存の施設等を維持保全する行為は認められている。また、B-1地区は既存建物の増改築及び簡易な工作物の設置・設備の設置は認められている。

そのため、10月12日～20日にかけて、移設予定地（幅1m×2m、深さ1m）の6地点で、地下遺構に影響のない場所に電柱・支線を移設するための遺構確認調査を行った。

その後、事業者より12月11日付け「史跡十三ヶ湊遺跡の現状変更（電柱建替）許可申請書」が提出され、文化財保護法第125条の規定により、12月14日付けで現状変更が許可された。なお、電柱建替え工事は史跡・遺構への影響のないように12月26日から平成30年1月12日にかけて実施された。

### 第2節 調査要項

#### 1 調査目的

史跡十三ヶ湊遺跡内における電柱建替え工事の実施に先立ち、史跡保存を目的とした遺構確認調査を行い、移設予定地の地下遺構に影響のないよう対応する。

#### 2 調査期間

平成29年10月12日～20日

#### 3 遺跡名及び所在地

史跡十三ヶ湊遺跡（県登録番号 205172）

青森県五所川原市十三ヶ湖岳456番地、474番地

#### 4 調査面積

18.5m<sup>2</sup>

#### 5 十三ヶ湊遺跡における調査次数

160次調査

## 6 調査機関

五所川原市教育委員会

教育長 長尾 孝紀

教育部長 寺田 建夫

文化スポーツ課長 葛西 一

課長補佐 大沢 丈徳

文化係長 藤原 弘明

主幹 柳原 滋高（報告書担当）

主任 江戸 邦之（調査担当）

主任 中川瑠唯子

主事 三山 国隆

## 第3節 調査の方法

史跡十三湊遺跡のA地区およびB地区内の電柱建替工事に係る現状変更判断の確認調査を実施した。建替箇所は6箇所で、本数は本柱6本、支柱1本、支線4本であり、それぞれトレーナーを設定し、遺構確認面まで掘削した。十三湊遺跡における発掘調査は160次調査となる。トレーナー名は、調査を開始した順に算用数字を付した。調査はすべて人力による掘削作業を行い、測量・遺構実測作業はすべてトータルステーションを用いて実施した。

1～3トレーナーについては、現状の位置が土壌に近いため、影響がないように旧十三小学校グランド側の位置に変更した。

4・5トレーナーについては遺構がない部分を確認した。全トレーナー確認後、杭を打ち建替位置を示した後、埋め戻した。

6トレーナーについては、当初、既存の電柱の隣に建てる予定であったが遺構が確認されたため、北側へトレーナーを拡張した。本柱の位置変更に伴って、支線の位置が現存するスキー山・人工盛土の斜面に変更となったことから、支線設置箇所は地下遺構へ影響が無いと判断し、確認調査は実施しなかった。

以上の結果を受けて、本工事における地下遺構への影響はないと判断された。

## 第4節 調査の概要

ここでは、検出遺構と出土遺物について、トレーナーごとに報告する。

### (1) 検出遺構

#### 1トレーナー

グランドの南西部に位置する。南北方向に渡って長さ3.4m×幅1mでトレーナーを設定した。調査の結果、中世とみられる柱穴5基(SP1～SP5)、土坑1基(SK1)を検出した。土層観察の結果、グランドを造成する際に地山面まで掘削され、新たに整地していることが判明した。

## 2 トレンチ

グランドの南西部で、1トレンチの東側に位置する。当初、南北方向に渡って長さ3m×幅1mでトレンチを設定したが、最終的に調査範囲を縮小して、2トレンチの南側部分に長さ2m×幅1mの範囲を地山面まで掘削した。調査の結果、中世とみられる土坑2基（SK1・SK2）、溝1条（SD1）を検出した。また、1トレンチと同様に、グランドを造成する際に地山面まで掘削され、新たに整地していることが判明した。

## 3 トレンチ

グランドの南東方向で、十三塗の大土塁付近に設置された遺跡看板が立つ地点である。電柱と支線を設置するため、2カ所のトレンチを設定した。3-1トレンチは東西方向に長さ3.2m×幅1mで設定し、トレンチの東端部と西端部を地山面まで掘削した。東端部からは中世とみられる土坑1基（SK1）を検出した。一方、西端部では現代のコンクリート製の井戸枠が壁際に検出されたが、底面から構造は認められなかった。3-2トレンチは長さ1m×幅0.8mである。コンクリート塊が一部検出されたため、トレンチ北側を地山面まで掘削したが、遺構は認められなかった。

## 4 トレンチ

グランド東側にある市道東側に、南北方向に渡って長さ1.3m×幅1mでトレンチを設定した。調査の結果、北側に中世とみられる土坑1基（SK1）を検出した。また、ここでは土層の擾乱は見られなかった。

## 5 トレンチ

グランドの東側に位置する。電柱と支線を設置するため、3カ所のトレンチを設定した。5-1トレンチは東西方向に長さ1.3m×幅1mで設定した。トレンチの東側は塩ビ管が設置され擾乱を受けたため、西側を地山面まで掘削した。底面から中世とみられる柱穴2基（SP1・SP2）を検出した。5-2トレンチは当初幅1m四方のトレンチ設定し、掘削したところ、コンクリート製の井戸枠を検出したため、西側に拡張した。最終的に東西方向に長さ1.5m×幅1mとなった。遺構・遺物は認められなかった。5-3トレンチは幅1m四方で設定した。調査の結果、大きく擾乱を受けていることが土層から確認された。

## 6 トレンチ

グランドの東端に位置する。南北方向に渡って長さ3m×幅1mでトレンチを設定した。調査の結果、北側に中世とみられる3条の溝跡（SD1～SD3）を検出した。また、土層観察の結果、ここでも中世遺構面の直上まで擾乱を受けていることが分かった。

### （2）出土遺物

今回の調査では、中世から近世の遺物が若干出土しており、トレンチごとに遺物の概要を報告する。陶磁器の分類・表記について、瀬戸焼（古瀬戸）は藤澤編年〔藤澤1996〕、珠洲焼は吉岡編年〔吉岡1994〕を用い、貿易陶磁器の青磁は上田編年〔上田1982〕を参考とした。なお、近現代とみら

れる遺物は省略した。

#### 1 トレンチ

1は近世陶器の水滴である。産地不明。上部にある穴を中心に2重の花弁文様を施す。先端部にある注ぎ口と底面が破損している。全体に灰白色の釉を施し、花弁文様のまわりには枝状の線刻がみられ、黒色釉を施す。2は珠洲焼の壺の体部破片である。体部の叩き目は粗く、珠洲V期、15世紀前半であろう。3は瀬戸焼の天目碗の口縁部片である。鉄釉を施す。口縁部の形態から古瀬戸後期II期、14世紀後葉～15世紀前葉であろう。4は瀬戸焼の平碗の体部破片である。底部に近い部分で外面は上部に灰釉、下部が露胎である。古瀬戸後期である。5は瀬戸焼の瓶類の口縁部片である。内外面に灰釉を施す。古瀬戸後期である。6は瓦質土器の火鉢の底部片である。内面は丁寧なナデ調整が行われ、外面は砂粒が露出している。

#### 2 トレンチ

7は瀬戸焼の盤類の底部片である。内面には灰釉、外面底部は露胎である。古瀬戸後期である。

#### 3 トレンチ

8・9は珠洲焼の壺の体部片である。それぞれ叩きも丁寧で緻密であり、珠洲IV期、14世紀代であろう。

#### 4 トレンチ

10・11は瓷器系陶器の壺蓋の体部片である。

#### 5 トレンチ

12は瀬戸焼の縁釉小皿である。灰釉である。内面は全面施釉で、外面は口縁部のみ施釉されている。古瀬戸後II期、14世紀後葉～15世紀前葉であろう。13は青磁の碗の口縁部片である。口縁部が外側に外反するタイプであり、端部は丸みを帯びていない。龍泉窯系碗D1類に分類される。14世紀後葉～15世紀前葉である。

#### 6 トレンチ

14～23は珠洲焼である。14～18は壺の体部破片である。それぞれ外面の叩き目が粗く、珠洲V期、15世紀前半であろう。19～23は擂鉢で、19・20は口縁部片、21・22は体部片、23は底部片である。19は口唇部に櫛目波状文を施しており、珠洲V期、15世紀前半であろう。20は口唇部が無文で、珠洲IV期、14世紀代である。21・22は内面全体に卸目が施されており、珠洲V期、15世紀前半であろう。23は内面の摩滅が激しく、卸目がみえない。珠洲V期、15世紀前半であろう。24は瓷器系陶器の壺蓋の体部片である。25は瀬戸焼の縁釉小皿の底部片である。灰釉である。内底面は灰釉のハケ塗りが施され、外面は露胎である。古瀬戸後期である。26は肥前系擂鉢の底部破片である。近世のものである。

## 第5節 まとめ

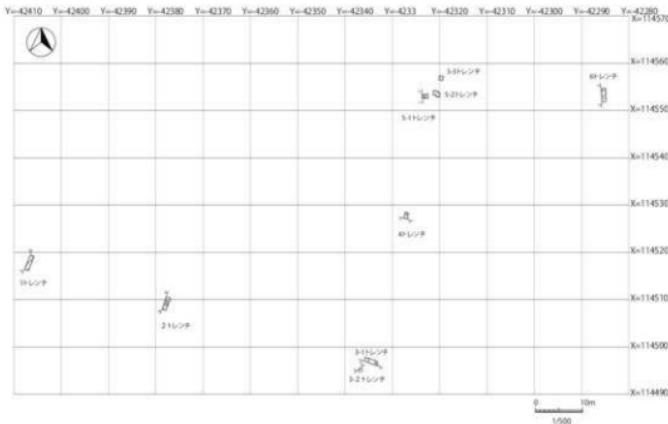
今回の調査地である旧十三小学校グランド一帯は、史跡十三ヶ遺跡の中心部である領主館地区に当たる。これまでの調査で小学校校舎下に領主クラスの中心区画が想定され、中心区画の周辺部にあたるグランド一帯には、これまで東西方向に伸びる柵囲い道路に挟まれた屋敷跡群が発見されている。

今回の調査は電柱を移設するための狭小な範囲によるトレンチ調査で、遺構の有無を確認するためのものであり、新しい知見を得られたわけではない。しかし、6トレンチでは溝跡（或は堀跡）が検出され、これが86・87次調査で検出された堀跡に繋がる可能性があることが分かった。

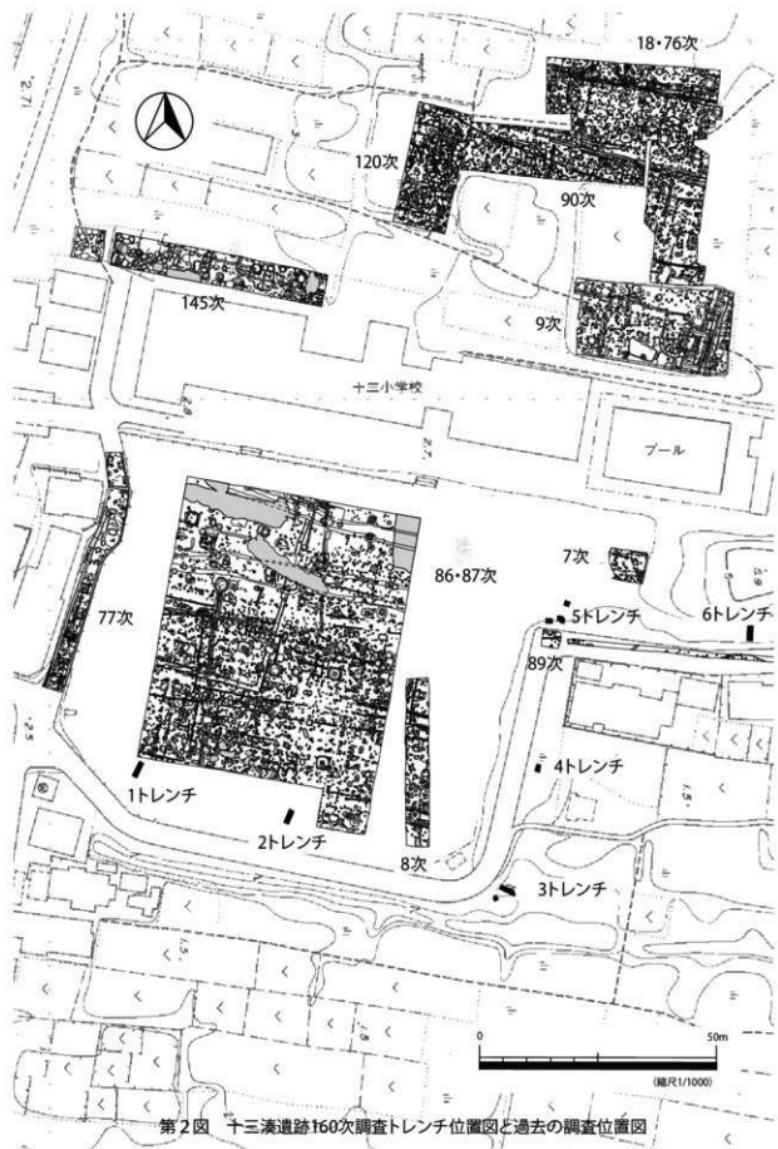
出土遺物では、青磁碗、瀬戸焼（古瀬戸）、珠洲焼、瓷器系陶器、瓦質土器のほか、わずかに近世陶器がある。これらの遺物は、十三ヶ遺跡におけるこれまでの発掘調査の出土遺物と似通っており、14世紀後半から15世紀前葉を最盛期とする陶磁器の様相・組成を示すものであった。

### 【引用・参考文献】

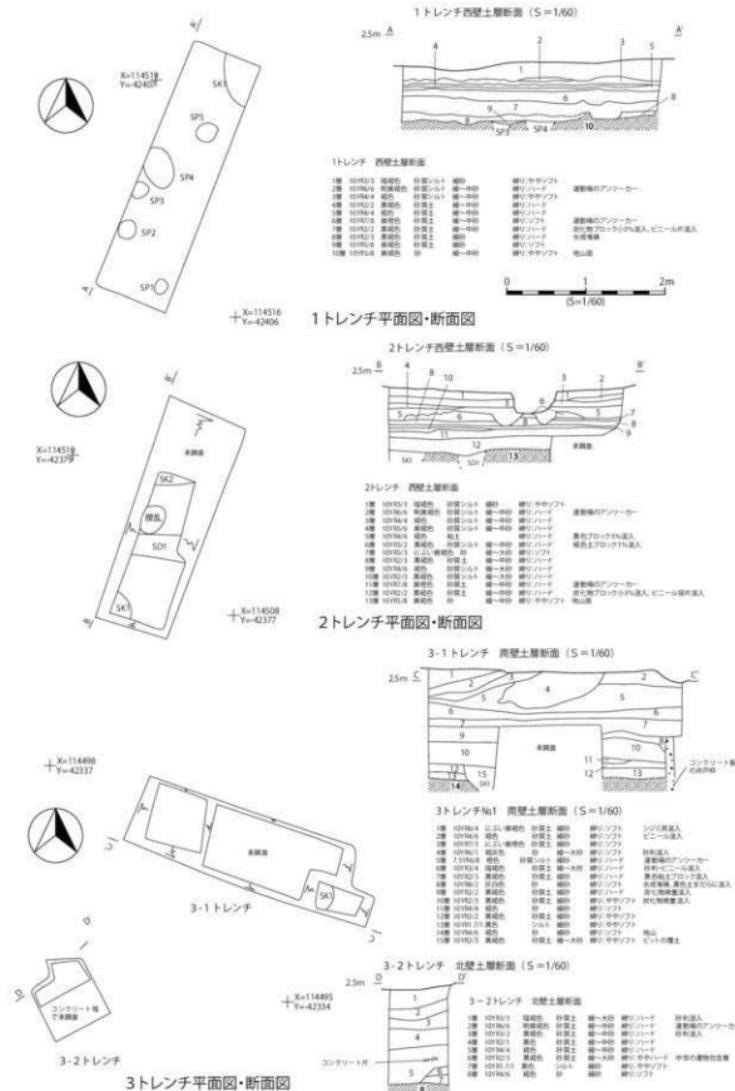
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2  
 五所川原市教育委員会 2008 「国指定史跡 十三ヶ遺跡保存管理計画書」  
 藤澤良祐 1996 「中世瀬戸窯の動態」「古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～」（財）瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム  
 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館



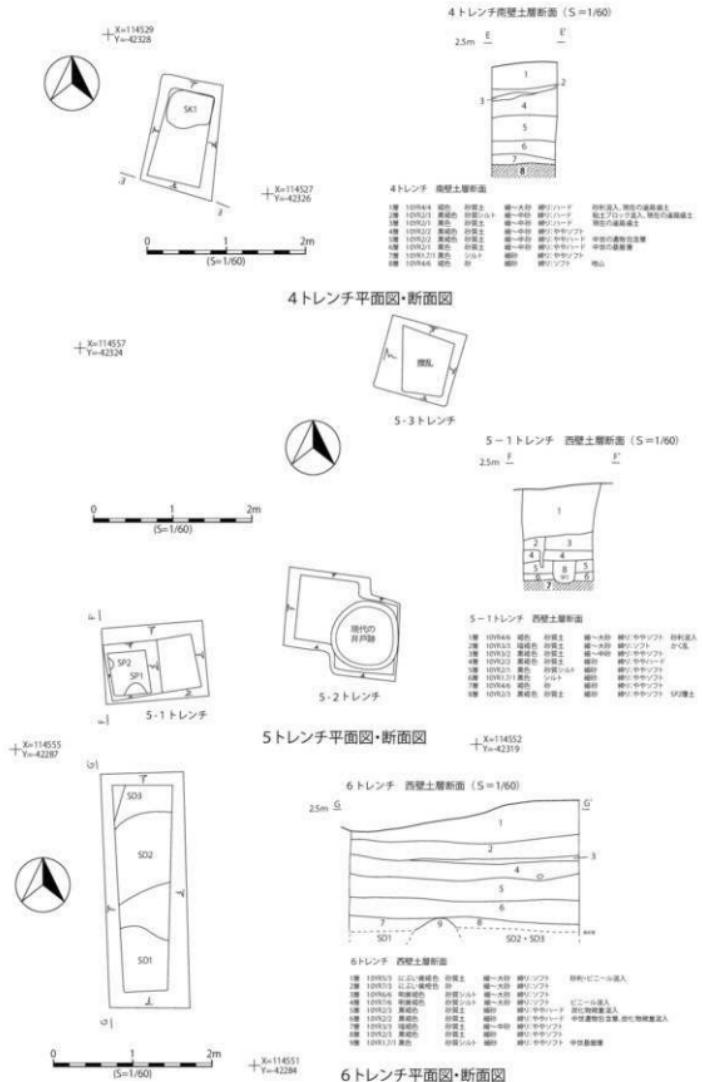
第1図 十三ヶ遺跡160次調査トレンチ配置図と国土座標（世界測地系） (S=1/1,000)



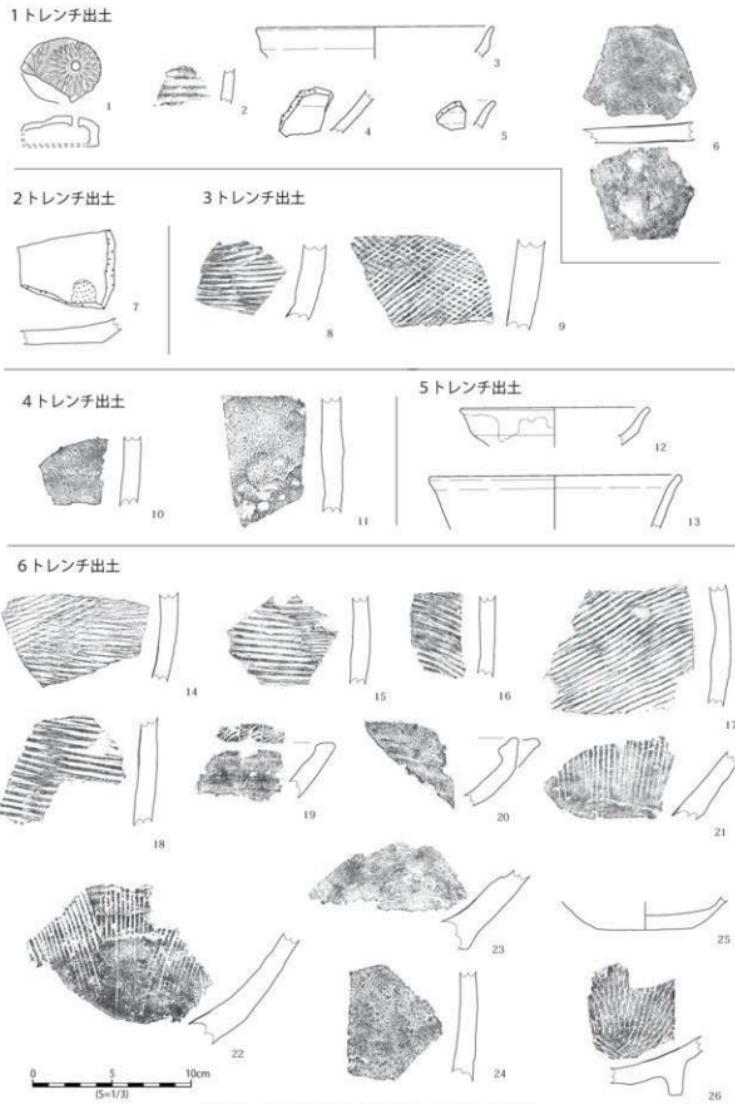
第2図 十三塗遺跡160次調査トレンチ位置図と過去の調査位置図



第3図 十三湊遺跡 160次調査 遺構平面図（1）



第4図 十三塗遺跡 160次調査 遺構平面図(2)



第5図 十三ヶ遺跡 160次調査 出土遺物実測図

遺物一覧表

No	地 点	層 位	種 類	器 種	備 考
1	1 トレンチ	1 ~ 9 層 (攪乱)	近世陶器	水滴	産地不明
2			珠洲焼	壺	珠洲V期
3			瀬戸焼	天目碗	古瀬戸後II期
4			瀬戸焼	平碗	古瀬戸後期
5			瀬戸焼	不明	古瀬戸後期
6			瓦質土器	火鉢	
7	2 トレンチ	12 層 (攪乱)	瀬戸焼	盤類	折縁深皿か御目付大皿
8	3 トレンチ	12・13 層	珠洲焼	壺	珠洲IV期
9			珠洲焼	壺	珠洲IV期
10	4 トレンチ	5 層	瓷器系陶器	壺甕	
11			瓷器系陶器	壺甕	
12	5・2 トレンチ	1 層 (攪乱)	瀬戸焼	綠釉小皿	古瀬戸後II期
13			青磁	碗	龍泉窯系 D 1 類
14	6 トレンチ	1 ~ 5 層 (攪乱)	珠洲焼	壺	珠洲V期
15			珠洲焼	壺	珠洲V期
16			珠洲焼	壺	珠洲V期
17			珠洲焼	壺	珠洲V期
18			珠洲焼	壺	珠洲V期
19			珠洲焼	擂鉢	口緑部一櫛目波状文、珠洲V期
20			珠洲焼	擂鉢	口緑部一無文、珠洲IV期
21			珠洲焼	擂鉢	珠洲V期
22			珠洲焼	擂鉢	珠洲V期
23			珠洲焼	擂鉢	珠洲V期
24			瓷器系陶器	壺甕	
25			瀬戸焼	綠釉小皿	古瀬戸後期
26			肥前系陶器	擂鉢	近世



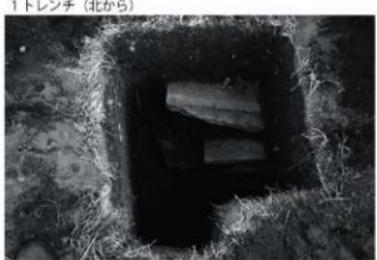
1 トレンチ (北から)



2 トレンチ (西から)



3-1 トレンチ (北から)



3-2 トレンチ (北から)



4 トレンチ (西から)



5-1 トレンチ (東から)

調査写真図版 1



5-2 トレンチ（西から）

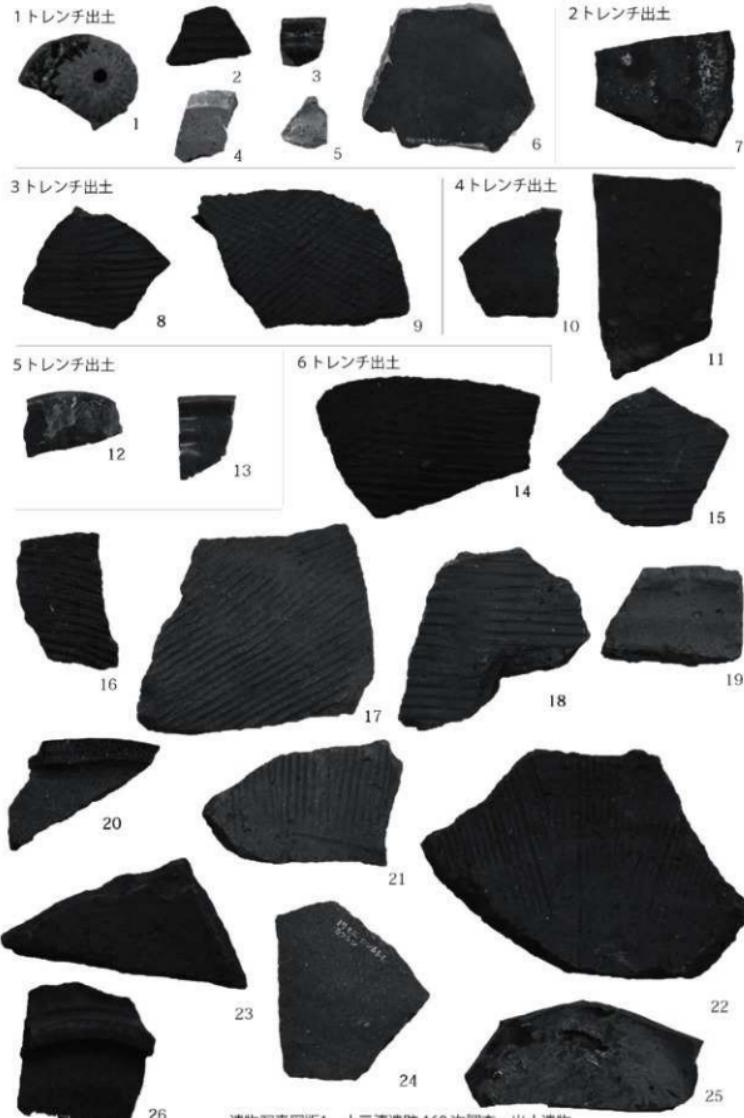


5-3 トレンチ（西から）



6 トレンチ（南から）

調査写真図版 2



遺物写真図版1 十三塗遺跡 160次調査 出土遺物



## 報 告 書 抄 錄

---

五所川原市埋蔵文化財調査報告書 第35集

## そとめやち 五月女泡遺跡・十三湊遺跡

—市内遺跡発掘調査等事業に伴う発掘調査および確認調査報告書—

発行年月日 2021年3月26日

編集・発行 五所川原市教育委員会  
〒037-8686 青森県五所川原市字布屋町41番地1

印刷所 有限会社 アート印刷  
〒037-0011 青森県五所川原市金山字亀ヶ岡46-7

---